

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地の6		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果確定日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の尊厳を大切に、その人たちに合ったケアを心掛けて、家族や地域の方々のご協力を頂き心身機能の活性化に努めている。
心身機能活性の為にラジオ体操や心身体操を毎日行っている。
個々の希望に添う様に、外出支援やレクリエーションは積極的に行っている。
季節毎のイベントやお誕生会には、ご家族を招待し利用者やゆっくり過ごせる環境作りに努めている。
利用者とスタッフのコミュニケーションを充分に取り、明るく開かれたグループホームを目指して活動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年5月に管理者が交代し、入居者の看取りや入院で入居者の入れ替わりが多い中、理念の「私たちは互いに尊敬と感謝の心を持って接し、その人らしさを大切にします。私たちは笑顔で満ち安心した生活を目指します。」をミーティングなどで話し合い、職員が一丸となって理念の実践に努めている。看取りの折は多くの親族の訪問があったが、不穏になることなく、生活を共にした方の死を受け入れ、葬儀に参加された入居者もあった。日頃から食料品の買い出しや商店街に出かけたり、家族やボランティアの協力で季節ごとの行事や外出も多く、家族との外出や外泊、人権講演会やふれあいコンサートに参加している。節分には職員手作りの味噌や嚙下に応じた形態の恵方巻は「おいしい」と、笑顔が溢れた。家族会と同日の運営推進会議は家族の参加が多く、自治会長や消防署、警察署の参加もあり、さらなる理念の具体化で地域包括ケアへの取り組みが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱和して共有している。入居者が安心して暮らせる様に地域の方々との関りを大切にして、開けたグループホーム作りに努めている。	ミーティングで理念について話し合っている。地域の方々の協力を得ながら、入居者ひとり一人が安心して暮らせるように努めている。	職員間の身近な目標など話し合い、更なる理念の具現化を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から山笠や盆踊りは毎年ホームまで来て下さり交流をしている。餅つきには自治会・消防・警察などに参加して頂いている。	母体事業所と合同の餅つきには自治会や消防署、警察署の参加が恒例になっている。毎年、七夕飾りの際には幼稚園児と交流が有り、園児たちの歌は入居者の大きな楽しみや喜びになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での共有や地域のボランティア・保育園などとの交流をしながら理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の実施、状況を報告してアドバイスを頂いてサービスの向上に努めている。	市担当者や自治会長、消防署、警察署の参加で2ヶ月ごとに会議を開催している。毎回、全家族に参加を呼びかけ、運営推進会議と家族会を同日に開催しているため、家族の参加が多い。委員から災害や詐欺等の情報提供があり、ホームからは小さな事故事例も報告し会議録は玄関に公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所・消防署・警察の担当者や民生委員に出席して頂き、協力関係を密にしている。	管理者は地域包括支援センターに出向き、書類等の相談や情報交換を、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修などを通して身体拘束について学ぶ機会を作り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	地域同業者協議会GHみやわか研修会参加や年間研修計画で研修に取り組み、全員が身体拘束の具体的な事例を理解している。夜間動き回る方には、見守りに対応している。現在徘徊ネットの登録者もなく、昼間は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修などを通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を作り、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで権利擁護・成年後見制度について学ぶ機会を作っている。 入居時以外でも必要性を感じれば話し合いをして支援している。	契約時に、日常生活自立支援事業や成年後見制度について入居者や家族に説明しているが、現在制度などを活用している入居者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や規約の改定などの際は利用者や家族が理解し納得できる様に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・運営推進会議の実施などにより意見や要望を聞く様になっている。 家族の来所時に利用者の状況を説明し意見や要望を聞いて運営に反映させている。	運営推進会議や家族会、誕生会や行事等、家族の訪問が多く、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりをしている。外出を増やしてほしいとの本人や家族からの要望は、個別に対応している。入居者の写真を掲載したホーム便りを毎月家族に送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで施設長や管理者が職員の意見・提案を聞き意見交換や情報の共有をして運営に反映させている。	職員の提案で、ミーティングは昼間に行われている。管理者はミーティングの前に職員から意見や提案、担当する入居者の状況を聞き取り、意見交換や情報の共有がしやすいように文書化している。職員から仕事の分担やケアの統一の提案、鍋やシャワーチェア等の購入依頼が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝礼やミーティングに施設長が参加して職員個々の勤務状況を把握している。 研修や資格取得を積極的かつ柔軟に対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては面接時に十分説明し採用対象から排除しない様になっている。職員の特技が活かせる様、適材適所で仕事ができる様に配慮している。 事前に希望休を聞き社会参加などが出来る様になっている。	法人で募集・採用しているが、配属先の希望は考慮されている。開設当初から就労している職員も多く、現在30代から70代と年齢に幅がある。体力に応じた働き方や働きながらの資格取得を奨励し、研修参加の調整や資格手当で応援している。外部研修は、管理者が職員の段階に応じて人選し、勤務時間に参加している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティング・研修などを通して人権教育に取り組んでいる。	研修参加や伝達講習、行政の主催する人権講演会やふれあいコンサートに入居者と一緒に参加することがある。不適切な言葉遣いなど気づいた時は個人的にその都度注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得を積極的かつ柔軟に対応する事で職員個々のスキルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、地域のグループホームの集まりに参加し各種研修や実践報告などを通じて、お互いのサービスの質を向上させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始時は、特に注意深く声掛け傾聴しながら、本人に寄り添って不安を取り除く関係づくりに努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始時に、家族とのコミュニケーションを密に取り、不安な事や要望を聞いて信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始時に、本人や家族との話し合いの中で、要望を聞いて必要としている支援を見極め、グループホームの特徴などを説明している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から自分で出来る事はしてもらう様に声掛けをしている。 利用者と職員も共に暮らし成長していける関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に利用者を支援し、出来るだけ多くの事に参加して頂くように声掛けして、一緒に支えていると言う想いを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの聞き取りから、職員による外出支援で馴染みの商店や美容院などに送迎している。	家族や本人の希望で馴染みの美容院に通う入居者がおられ、商店街や郵便局へ職員と一緒に出かけたりしている。散歩の途中で出会った知人に、「そのホームにいるから会いに来て。」と、入居者に誘われて訪問される方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの趣味・嗜好を把握し、利用者同士がうまく噛み合えるように支援している。利用者同士が声がけし合い、生活リハビリやレクリエーションなどを一緒に行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した後も本人・家族のその後の経過をフォローし、相談や支援に努めている。(病院へのお見舞いなど)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人と良く面談をして、本人の意向を把握し、出来る限り本人の希望に添う様に努力している。	担当職員が把握した意向や思いはミーティングで共有され、アセスメントシートに追記されている。入浴介助は入居者の一人ひとりとゆっくりと話しができるため、本音や思いが表出される機会となっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と良く面談をしてその聞き取りから、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中から利用者一人ひとりの生活状況を把握・分析している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに主担当を決め、日々のケアの中で情報交換をし合い、現状に即した介護計画を立てている。	介護日誌に入居者の短期目標を確認できるように表記している。職員は担当する入居者のモニタリングを毎月実施し、サービスの提供状況や目標の達成状況を把握してミーティングで全員で話し合い、入居者の心身の状況変化に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を日々のケアの中で職員間で共有し、朝礼やミーティング等でフォローして計画見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やその家族に柔軟に対応し、様々なニーズに合ったサービスの提供を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを招いたり、地域の行事に参加するなどして、豊かな暮らしを楽しむ様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期的な往診と、体調不良の時にはその都度受診している。 本人及び家族の意向に沿って、適切な医療が受けられる様支援している。	2週間に1度訪問診療や、週に1度の歯科の訪問診療や訪問看護による健康チェックを受けている。家族同行で総合病院に定期的受診される方や訪問リハビリを受けられる方等、個別に医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が適切な看護を受けられる様に、看護職員や訪問看護師に状況を伝え、相談できる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者との情報交換を密にして、安心して治療して頂ける様に支援している。 また日頃から病院関係者とは良好な関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所として出来る事・出来ない事などを十分に説明し、本人や家族の意思確認書を頂く様にしている。 医師や看護師に利用者の状況や要望を相談しながら支援している。	重度化及び看取りの対応に係る指針や終末期の希望、看取り介護の同意書を整備し、入居契約時に説明している。昨年は本人や家族の希望に沿って、かかりつけ医や訪問看護と連携しながら2名の方の看取りを行っている。遠方から多くの親族が訪問し、最後に息子さんの食事介助を受けて永眠された入居者もあり、「大往生でした」と家族の謝辞もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って、利用者の急変や事故に対応している。 職員全員で定期的研修を行い、実践力を身に付け備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下、年2回の消防訓練を実施している。 前回は水害を想定し、高台にある有料老人ホームに実際に避難する訓練を実施した。	1回は夜間想定で、年2回避難訓練を実施している。運営推進会議の当日に訓練を実施し地域との協力を努めている。水害に対する避難訓練では、消防署から実際の避難ではもっと時間がかかる為、早めの避難開始が大切との指摘があった。AEDや救急蘇生法は定期的に講習会に参加し、水や食料品の備蓄がある。	日頃から近隣に災害時の協力をお願いするとともに、夜間に緊急連絡網を活用して実際の集合時間を計測する等、災害時の実践的な訓練の積み重ねを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心して生活できる様に一人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合った支援・対応を行っている。	理念に謳った人権に配慮しながら、その人らしさを大切に支援している。ミーティングで入居者の呼称は「さん」に統一し、同じ苗字の方には名前で呼んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が実現できる様に、出来る限りの支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添って出来る限りの支援をしながら、一人ひとりに合ったその人らしい暮らしを送れる様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの趣味・嗜好に合わせたおしゃれが出来る様に支援している。 また、定期的な訪問散髪や行きつけの美容室送迎等も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握し献立作りの参考にしている。 安全な範囲で準備や後片付けを一緒にやっている。	食事作りは入居者の嗜好や季節感を取り入れて職員が交代で行っている。野菜の筋取りや皮むき等の準備や下膳を手伝う入居者もいる。訪問した日は節分で、職員が手作りの恵方巻きを個々の咀嚼や嚥下に合わせた形態で提供していたが、「おいしい」と好評であった。外食の際には、本人の好きなものを食べていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、摂取量の確保に努めている。 摂れない時は一人ひとりの好みに応じ、摂取出来る物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせて声掛けをしたり介助したりして、口腔ケアを行っている。 毎週金曜日には訪問歯科が来て口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じ、出来る限りトイレで排泄できる様に支援している。 一人でも多くの利用者が布パンツをはいて頂ける様に努力している。	入居当初はオムツ使用でも、徐々に尿意や便意が戻り、トイレ誘導で紙パンツ使用に変更できた方がいる。トイレに誘導する際にも、職員2名での誘導から1名で対応できるようになったり、自分でトイレで排泄されるようになり、自立への支援を続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分や食物繊維の多い食べ物の摂取に心掛けており、ラジオ体操や心身体操で体を動かして排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本人の体調や希望により柔軟に入浴対応している。 週3回入浴が出来る様に支援している。	毎日入浴できる準備をして、週3回を基本に入浴支援している。重度化された入居者もできるだけシャワー浴等を支援している。拒否のある方は翌日に入浴したり、失禁等には柔軟に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりが自由に居室で休息できる様支援している。 生活習慣や安眠を阻害しない様に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の管理、服薬支援を行い、ミーティング等で薬の摂取目的や副作用の影響などを理解する様に徹底。 症状の変化を観察し主治医と相談して都度対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の性格や興味の有る物を把握し、様々なレクリエーションを実施したり、生活リハビリを通じ役割分担をして、気分転換が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・様々なイベントなど出来る限り本人の希望に添える様に外出支援を行っている。 年に2回、直方イオンでの昼食会を家族の協力を得て実施している。	季節ごとのお花見やドライブ、初詣等と様々な外出を計画したり、家族の協力を得ながら旅行や自宅に外泊される入居者もいる。日頃から食料品の買い出しや商店街に出かけたり、個別の買い物を支援して外出や気分転換の散歩に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に本人の希望や能力に応じてお金を持たせ、所持する事大切さを理解する支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りを支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾物を取り換えて、利用者が季節の移り変わりを感じられる様に工夫している。共用の空間は常に清潔を保ち、空調や防臭等に配慮している。 ホームは天井が高く開放感があり、太陽光を多く取り入れられる作りになっている。	玄関を開けると、お雛様の段飾りや節分の設えがあり、水仙の香りが満ちて春の訪れが感じられる。吹き抜けの天井で広々と明るいリビングはテーブルや椅子、ソファが配置され、入居者同士や職員と楽しく談笑する姿がある。浴室やトイレは採光や空調を配慮し、寒さや違和感を感じず、心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれがソファやカウンター・リビングのテーブルで自由に過ごせる様に工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やその家族が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、その意向を尊重して居心地の良い空間づくりに配慮している。	家族の協力で居室に加湿器を持参していただき、寝具の毛布等も好みの物を持ち込まれている。お気に入りの家具や写真、家族が描いた絵画を飾ったり、趣味の作品を飾って個性的で居心地のよい部屋作りになっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの能力に応じて自立支援や事故防止の見守りを行っている。 廊下の手すり・夜間の足元灯など、安全に歩行できる様に支援している。		